

本の受賞作品集

○毎日出版文化賞特別賞(第71回)  
○新書大賞(2018)  
「バッタを倒しにアフリカへ」

前野ウルド浩太郎/著



人類を救うため、そして「バッタに食べられたい」という自身の夢を叶えるために。昆虫学者である著者が、バッタ被害を食い止めるため単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴る。

著者の前野ウルド浩太郎(まえの・こうたろう)さんは、1980年秋田県生まれ。神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士(農学)。国立研究開発法人国際農林水産業研究センター研究員。

「孤独なバッタが群れるとき」でいける本大賞を受賞。

○料理レシピ本大賞 in Japan 料理部門大賞(第5回)  
○料理レシピ本大賞 in Japan 料理部門DNP賞(第5回)  
「みそ汁はおかずです」

瀬尾 幸子/著



切る、煮る、みそを溶く。ワザ・コツ不要。誰でも作れて、野菜がたくさん食べられる。みそ汁をこよなく愛する瀬尾さんが、おなじみの食材で作るみそ汁レシピを紹介する。

著者の瀬尾幸子(せお・ゆきこ)さんは、料理研究家。「頑張りすぎず、毎日作れる料理」を雑誌、書籍、テレビなどで提案。著書に「ラウマごはんのコツ」など。

○科学ジャーナリスト賞(2018)  
○講談社科学出版賞(第34回)  
「我々はなぜ我々だけなのか」

川端 裕人/著  
海部 陽介/監修



我々ホモ・サピエンスの出現前、アジアにいた多様な「人類」はなぜ滅んだのか。我々はなぜ生き残ったのか。アジア人類進化学の第一人者と、彼に導かれ「我々とは何か」を問いつけた著者による人類学の最新成果。

著者の川端裕人(かわばた・ひろと)さんは1964年兵庫県生まれ。東京大学教養学部卒業。日本テレビ報道局を経て、フリーランス。著書に「夏のロケット」「動物園にできること」「8時間睡眠のウソ」など。

2月の催しもの

とき	催しもの
毎週月曜日・午前11時～	あかちゃん絵本よみきかせ会
毎週木曜日・午前10時～午後0時30分	あかちゃんクラブラッコルーム
2日(土)・午前11時～	「おはなし」と「あそび」の広場
16日(土)・午前11時～	
23日(土)・午後2時～	
9日(土)・午後2時～	
3日(日)・午前11時～午後2時～	子どもビデオ劇場
17日(日)・午前11時～午後3時～	子ども工作教室「おひなさまをつくらう！」

◆展示会「広重複製画 東海道五十三次」  
2/9(土)～2/24(日)

その他の本

- ◆ビジネス書大賞(2018)  
「SHOE DOG」 フィル・ナイト/著  
大田黒 奉之/訳
- ◆芸術選奨文部科学大臣賞  
「わたしの城下町」 木下 直之/著
- ◆本屋大賞(第15回)  
「かがみの狐城」 辻村 深月/著
- ◆芥川賞(第159回(2018上半期))  
「送り火」 高橋 弘希/著
- ◆直木賞(第159回(2018上半期))  
「ファーストラヴ」 島本 理生/著
- ◆鮎川哲也賞(第27回)・本格ミステリ大賞小説部門(第18回)  
「屍人荘の殺人」 今村 昌弘/著

俳句 「日脚伸ぶ」

ふそう俳句会

日脚伸ぶ只今警ら中の札  
飛び立てる軍鶏の如くや樹氷散る  
寒明けと言へども朝の目ざめ悪し

千田 一到  
吉野 童子  
永井 年國

川柳

扶桑川柳クラブ

どっこいしょ日に何回もはげまされ  
蟹すきの余韻楽しむお雑炊  
余り日は楽しいことから先にやる

高木 節子  
高野瀬徳子  
山田志げ子

短歌 「初節句」

ふそう短歌会

如月の光の中の雛飾り  
初節句の孫ちよこんと並ぶ  
生きてあれば明日もまた来ん狭庭にて  
サフラン、水仙咲くを日々待つ  
北風はペンシルタワーの尖研ぎて  
名古屋の街に聖夜近づく

赤尾 洋子  
吉村 昌子  
村雲たみえ

詩吟 「江雪」

柳宗元

千山 鳥 飛ぶこと絶え  
万径 人蹤 滅す  
孤舟 蓑笠の翁  
独り 釣る 寒江の雪

「意」山々に飛ぶ鳥の姿もなく、道々は雪にうずもれて人の足跡もなくなってしまった。雪のなか、一そうの小舟を浮かべて蓑笠姿の老人が一人釣り糸をたれている。

正風流二代目家元 山内 正風